

成果指標設定調書

【成果指標の設定】

成果指標設定年度 30 年度

市町村名	蕨市			
提案事業名	日本語指導を活用した外国人にやさしいまちづくり推進事業			
事業期間	30 年度	～	30 年度	
事業の必要性、目的	<p>蕨市は、人口に占める外国人がH29年11月末で6,036人（人口割合8.1%）と埼玉県内1の割合である。※H27.4.1時点で3,919人（人口割合5.4%）</p> <p>外国人人口が増えるなか、外国語指導や制度の周知等の蕨市特有の課題がみられるようになってきている。</p> <p>教育センターの移転・機能強化事業については、外国人人口が増えるなか、外国人の子供に対しての日本語教育の充実が課題となっている。現在、蕨市福祉・児童センター内に教育センター機能を設置し運用しているが、増加する外国人に対して十分な日本語教育の提供が難しくなっているため、中央小学校のスペースを活用することで、十分な学習環境を確保し、安心して学校に通える環境づくりを目指すものである。また、本事業をきっかけに、外国人の子供が地域に溶け込むことができるようになる等の副次的な効果も期待できるものである。</p> <p>なお、本事業は、埼玉県5か年計画の施策55「多文化共生と国際交流の推進」の事業にも関連するものである。</p>			
成果指標	（成果を検証する指標） 教育センターでの学習期間の目安（3か月）内に指導が完了する児童・生徒の割合			
	（成果検証の具体的な方法） 年度末時点で、3か月以内に指導を完了し、教育センターでの学習を修了した児童・生徒の割合を算出する			
	（上記の指標を設定した理由） 教育センターでの学習時間が増加することで、児童・生徒の習熟効果が向上すると考えられる為。			
	（成果の目標値）			
	現状値 （30年3月現在）	91%	目標値 （31年3月時点）	95%
	（施設建設等の場合）			
	年間利用者数（目標）（人）		稼働率（目標）（%）	
住民への公表方法及び特記事項				

【成果指標と構成事業の関連性】

平成30年度 構成事業

構成事業名	概要・成果指標との関連性	事業費（千円）
① 教育センターの移転による日本語指導充実プログラム	ハード 日本語指導が必要な児童・生徒に向けた指導の拡充と教育上の諸問題に対応するため、教育センターを移転することで、外国人の子供たちの日本語力向上に資する事業である。	7,629
合計		7,629

【成果指標の達成見込み】

目標達成のための具体的な方策	教育センターの移転により、学習スペースが確保されるとともに、移転前は、準備・片づけを含めて1時間半の学習時間であったが、移転後は、時間的制約が無くなる為、より効率的な学習効果が期待できる。
成果指標の達成見込み	上記のことから目標達成は十分可能であると考える。

(記入上の注意)

【成果指標の設定】

- ・住民への公表方法は具体的に記述すること

【成果指標と構成事業の関連性】

- ・提案事業を構成する各事業(構成事業)について次のとおり分類すること

「ハード」 施設建設等が中心の事業(ハード事業)。

「ソフト」 主に人的要素を活用した活動でハード事業以外の事業(ソフト事業)。

「間接補」 青年会議所、商工会議所・商工会、自治会、NPO等の公共的団体が実施する事業に対して市町村が補助金を交付するもの(間接補助事業)。

- ・事業費は補助金を要望する単年度の事業費のみ記入すること。また、間接補助事業の場合には、事業費の下に()書きで、市町村の負担額又は補助額を記入すること。